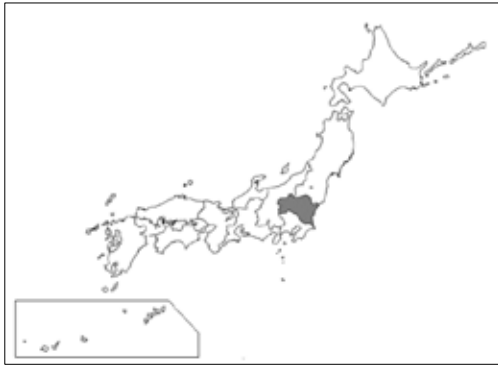


### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

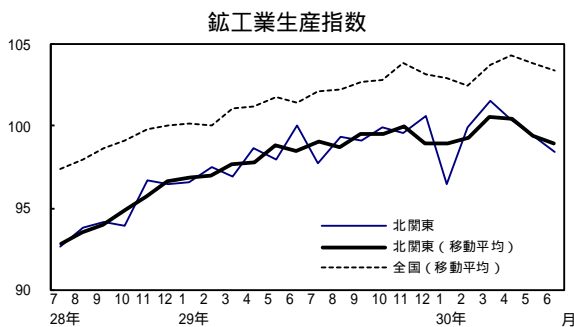
#### 前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 5 月)	今回 (平成 30 年 8 月)	
住宅建設	大幅に減少	減少	

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

4 - 6月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、増加した。「輸送機械」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

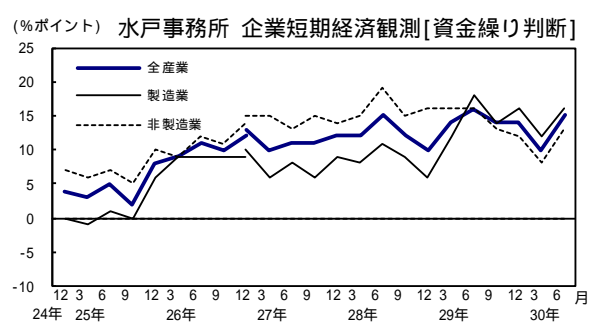
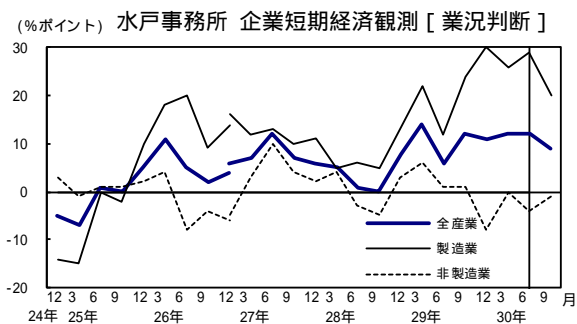
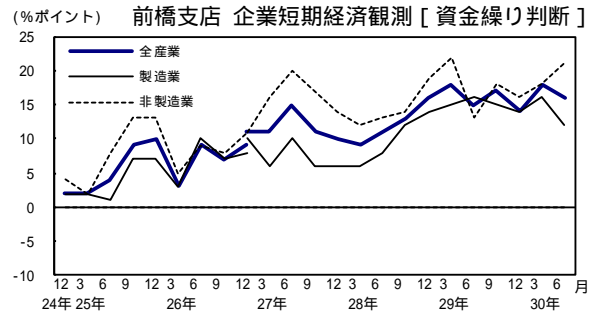
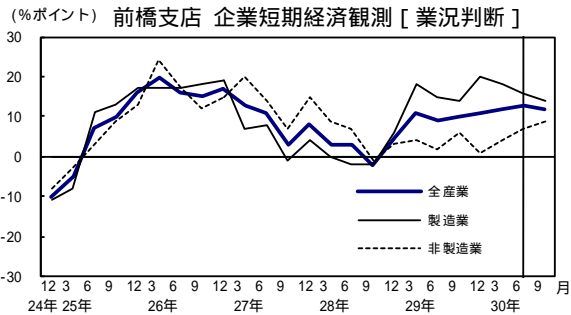
	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.8	2.0	2.4	1.3	3.5	1.6
電子デバ、電気・情報通信	19.5	1.2	0.1	0.2	2.0	2.7
輸送機械	18.4	0.6	2.3	1.0	3.6	3.5
汎・生産・業務用機械	16.1	0.6	0.9	2.9	0.5	5.4
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	13.0	0.4	1.8	0.4	0.1	0.4
鉱工業	100.0	0.7	0.1	1.1	0.9	1.1

- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び北関東の大線は中心3か月移動平均。  
 直近月は2か月平均。  
 3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 4 - 6月期、6月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

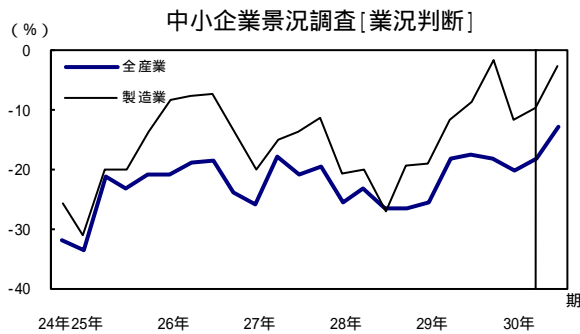
(2) 日銀短観における前橋支店管内の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。  
水戸事務所管内の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

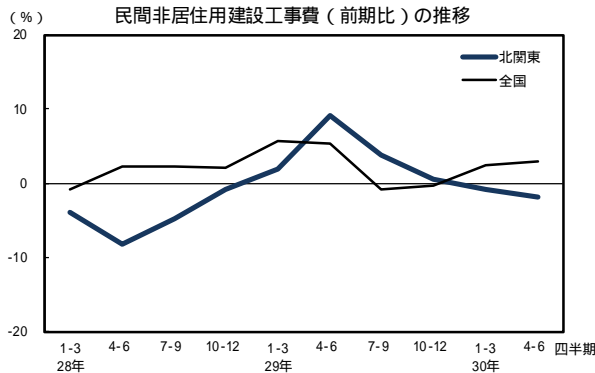
「油圧建機や自動車試作の関連を中心に、受注残を多く抱えており、一部の部署で24時間態勢で納期対応しているものの、生産能力が不足している状況である(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 北関東

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資(6月調査) ]

(前年度比、%)



(備考) 1. 季節調整値。

2. 30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

	29年度実績		30年度推	
全産業				
前橋支店	2.6	(0.4)	6.6	(4.8)
水戸事務所	7.8	(14.4)	27.4	(5.5)
製造業				
前橋支店	1.1	(0.6)	5.6	(2.8)
水戸事務所	11.1	(20.6)	41.7	(8.0)
非製造業				
前橋支店	8.8	(0.8)	11.0	(13.5)
水戸事務所	0.9	(0.2)	1.0	(0.5)

(備考) ( )は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数(RDEI(消費))

4月は前月比0.1%増、5月は同0.2%増、6月は同1.5%増となった。

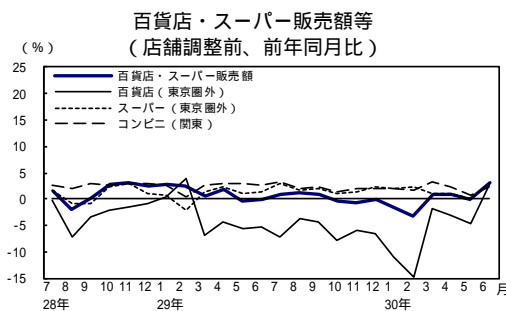
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、家庭用品等の不調により、前年を下回った。5月は、衣料品等の不調により、前年を下回った。6月は、その他の商品等の好調により、前年を上回った。

スーパーは、4-6月期は、身の回り品、衣料品等が不調であったものの、飲食料品が好調だったことにより、前年を上回った。

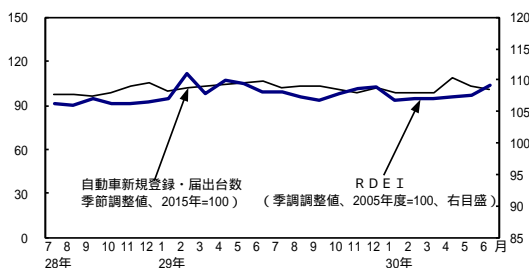
景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「連日の酷暑で来客数が減っている。飲料などの一部商品群は好調だが、全体としては来客数減少の影響が大きく、売上減につながっている。衣料品は夏物セールが前月末に前倒しになったため、今月は苦戦している。トータルではやや悪化している(百貨店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	30年4-6月	30年4月	5月	6月
RDEI(消費*1)	0.9	0.1	0.2	1.5
百貨店・スーパー(*2)	1.3	0.9	0.0	3.0
百貨店(*3)	1.8	3.0	4.8	2.5
スーパー(*3)	1.3	1.0	0.2	2.8
コンビニ(*3)	1.7	2.3	0.8	2.2
乗用車(*4)	1.3	5.9	2.1	5.9
(季節調整値)(*4)	5.6	10.5	4.9	2.0

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比

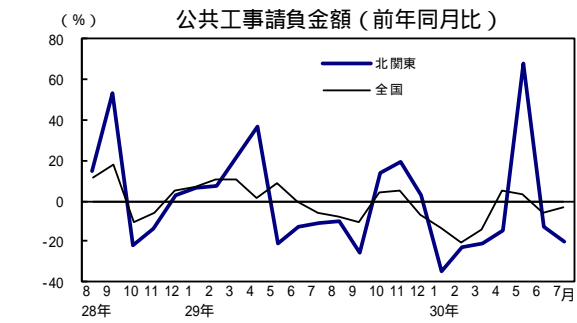
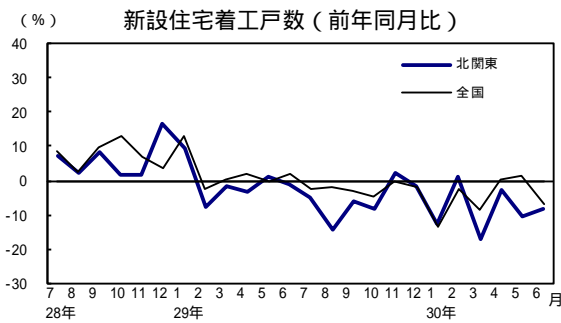
・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外(茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

・コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

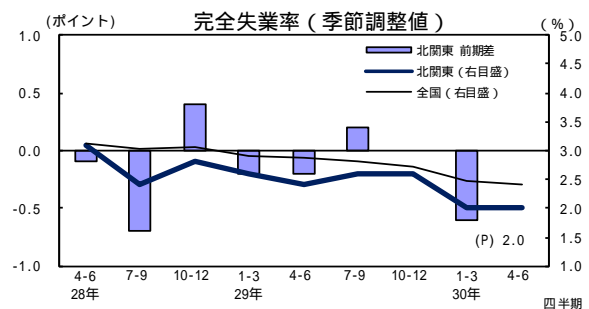
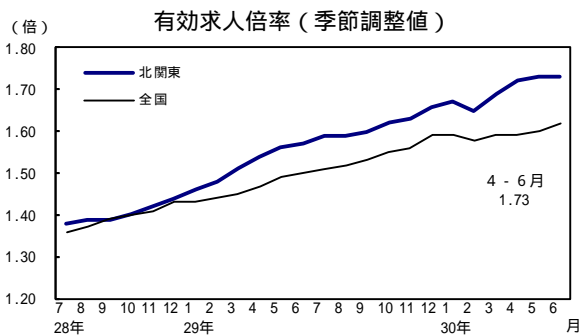
(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。  
貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は30年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。  
2. 4 - 6月期の値は暫定値。

#### 景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

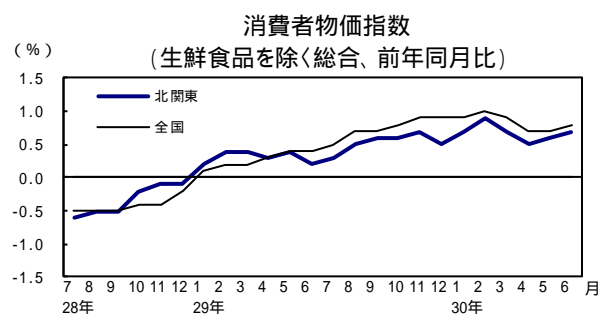
「6月公表分の全国の求人倍率 1.6 倍に対して、栃木県は 1.44 倍と全国 30 位である。県内トップの市でも全国を下回る 1.49 倍の状況である (学校 [専門学校])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年7-9月	10-12月	30年1-3月	4-6月	30年7月
倒産件数	76	70	94	85	23
(前年比)	1.3	26.3	4.4	2.4	20.7
負債総額	202	70	249	104	33
(前年比)	65.9	61.9	50.4	21.2	28.2



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

(3) 北関東

